

刑法各論 I

科目ナンバリング CRL-201
選択 2単位

増田 隆

1. 授業の概要(ねらい)

「その犯罪が成立するためには、どのような要件を充足する必要があるのか?」、すなわち個別具体的な犯罪成立要件について、必要なときには他の法分野の概説も交えつつ、判例や裁判例を可能な限り多く紹介しながら、説明したいと思います。刑法各論は、総論ほど抽象的で難解なイメージはないと思います。なお、刑法各論 I では、刑法各論 II で財産犯(個人的法益に対する罪)を集中的に学ぶために、財産犯以外の個人的法益に対する罪と社会的法益に対する罪の一部について扱います。

2. 授業の到達目標

①各犯罪をふまえたうえで、人に分かるよう説明できるようになること。

3. 成績評価の方法および基準

平常点(40%)及び筆記試験(60%)。なお、最終授業日に、総復習として授業内試験及びその解説を行う場合があります。

4. 教科書・参考文献

教科書

高橋則夫 『刑法各論』(3版:2018年) 成文堂

佐伯仁志ほか 『刑法判例百選Ⅱ -- 各論』(8版:2020年) 有斐閣

5. 準備学修の内容

教科書の該当箇所を精読してください。

6. その他履修上の注意事項

法律学習の基本は教科書を読むことです。ですから、受講生は指定教科書を丁寧に読むことにより、知識を定着させてください。また、知識の単なる丸暗記に終始することなく、「なぜ?」と自問する探求心を、刑法を素材に身につけてもらいたいと思います。授業に出席して学ぶことはもちろんのこと、他人と場所及び時間を共有していることを常時意識して、私語を慎む等各自自覚してください。なお、レジュメ等は、LMSで各自ダウンロード・印刷してください。

7. 授業内容

- 【第1回】 刑法各論とは何か?
- 【第2回】 生命に対する罪(1)
- 【第3回】 生命に対する罪(2)
- 【第4回】 身体に対する罪
- 【第5回】 自由に対する罪(1)
- 【第6回】 自由に対する罪(2)
- 【第7回】 自由に対する罪(3)
- 【第8回】 自由に対する罪(4)
- 【第9回】 人格的法益に対する罪
- 【第10回】 信用及び業務に対する罪
- 【第11回】 放火罪(1)
- 【第12回】 放火罪(2)
- 【第13回】 偽造罪(1)
- 【第14回】 偽造罪(2)
- 【第15回】 総復習